（別紙4）　　令和3年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3270400595		
法人名	社会福祉法人　出雲南福祉会		
事業所名	グループホーム　寿生の丘（まつ棟）		
所在地	島根県出雲市大津町3622-15		
自己評価作成日	令和3年11月30日	評価結果市町村受理日	令和4年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http//www. kaigokennsaku. jp／

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	令和4年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

施設の開所時より認知症ケアの基本であるご利用者を真中に置いたケアと寄り添いを心がけてきました。明るく元気な職員が見守る中、その人らしく、また笑顔のある暮らしが維持出来るよう支援しています。定期的な地域ボランティアの来所、近隣保育園との交流、学生の職場体験の受け入れなど幅広く地域との関わりを持つ様心がけ、「地域の中の寿生の丘」として向上を目指しています。コロナ禍で活動が滞っていることは残念ですが、その中でもご利用者に不安やストレスを感じさせないよう職員一丸で日々支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設20年あまりが経ち、設立当初より変わらず、職員のチームワークを大切にし質の高いケアを実践している。グループホームの利用者さんは、自分の家のように、また、職員皆が家族のような雰囲気の中で、管理されることなくのびのびと暮らしている。母体法人には、特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスなどのほかにも、サービス付き高齢者住宅や保育園などもあり、地域の福祉の拠点となっている。コロナ禍にあって、公民館や学校、幼稚園などとの交流や、地元のボランティア訪問を自粛しており、再開が待たれている。。利用者さんが重度化する場合には、隣接する病院などに入院するなど適切に医療と連携している。業務は、24時間にわたる個別のケアマニュアルにのっとり、寄り添ったケアが実践されている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より作成し玄関先に掲示して理念実践に向けて取り組んでいる。	ホーム独自の理念「利用者の生命を尊びその尊厳と人権を限りなく尊重し残存機能を生かし、自立にむけての生活援助に最善をつくす」は、職員が毎日唱和しており、暗記されている。利用者さんは、家庭のようにホームに馴染んで暮らしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの為交流等は控えているが落ち着いたら以前の様な交流を持ちたいと思っている。	生け花や習字などホーム外の地元の趣味のサークルやボランティア訪問などが、コロナ禍にあって自粛しており、再開が待たれている。近くの散歩やドラッグストアなどへの買い物には出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの為行えていないが落ち着いたら以前の様に中学生の職場体験実習の受け入れを行い交流を持ちたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの為書面のみで行っている。	コロナ禍にあって、書面会議であるが、詳細なホームからの報告書に対して参加メンバー（利用者家族、地域住民代表、駅前交番所長、あんしん支援センターなど）からの返信もあって、ホーム運営について活発に意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報提供等を取り寄せ、利用者を把握し良いケアが出来る様努めている。	市の担当職員とは、さまざまな利用者さんの入居の事なども相談している。地域密着型施設としての出雲市の法制度の扱いや、利用者さんを取り巻く事情に応じた対応なども指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じ、理解している。職員は利用者の所在を把握し、必要以上の施錠をしないようにしている。（必要のある時は、ご家族様に十分な説明を行い同意書を準備している）	ガラス戸や窓が多いので、外がよく見えて、開放的である。夜以外は、施錠はせず、職員が利用者さんの動きを把握し、見守ることで、自由を奪わないように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症ケアの原則をステーション内に貼ったり申し送りに各自再確認を行っている。また、定期的に勉強会を開いている。3ヶ月に1回身体拘束委員会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族からの相談時など日々制度等について情報提供に努めている。現在外部講習には参加出来ていないが今後あれば参加したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際利用者や家族に十分な説明を行い話し合い、理解が得られる様努めている。都度書面により改定があった場合十分な説明と同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けている。その他、日頃のコミュニケーションの中で、何でも話し易い雰囲気作りをし、安心して過ごして頂ける様にしている。苦情があれば都度、対応している。家族にアンケートを記入してもらい意見反映を行っている。	面会や日々の報告、毎月のお便りなど、家族さんと密にコミュニケーションを取っており、意見なども言いやすい雰囲気である。体調のこと、食事のこと、運動のこと、外出のことなど、いろいろと、利用者さんのためにと意見を言われ、ほとんどのことは取り組むようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時には会を設け検討しその意見をまとめ代表者に伝える機会をもつようにしている。	2ユニットのホームと隣接する認知症対応型デイサービスが合同で会議をし、その後でそれぞれで、会議を持つ。職員はアイデアや意見を出しやすいと言う。全員で協力して取り組んでみて、評価、変更などを行い、常にケアの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は日常的に管理者の意見を聞く場を持ち、管理者及び職員個々の状況把握をし、働きやすい環境、条件の整備に努めている。又、職員のスキルアップのための研修等の参加も積極的に推している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修に出る機会を持ち、活かせる様努めている。又、伝達研修を実施したり個人のステップアップ研修（資格取得等）を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	お互いの施設実習をし向上出来るよう努めていたが、最近出来ていないので検討課題にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの時点で相談に乗り、入所前には実調に行き現状把握と信頼関係の構築に努めている。入所決定時には可能な限り本人の要望に答えられるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点で相談に乗り、入所決定時には実調に行き現状把握と信頼関係の構築に努めている。入所決定時もしくはサービス利用開始時には家族の気持ちを受け止め、要望を聞いたりし関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと連携を取り可能なサービス内容の助言、提案をしている。現状を把握し、個々に合った支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や活動で共に出来るような場面を作り、お互いに信頼できる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に生活の状況がいつでも分かるよう連絡表を送っている。又、日常的にご家族様とコミュニケーションを十分にとり何でも話しやすい環境作りに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て自宅への外出・外泊,行きつけの美容院や墓参り等支援を現在は出来ていないが続けていきたい。	コロナ禍にあって、外部の人々との交流が制限されるためホーム内での交流や家族のみとの面会が続いてきた。自由にいろいろな場所へのお出かけや行事への参加活動が待たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じて職員が間に入ったりし一人一人が孤立しない様にコミュニケーション作りを支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても利用者との良い関係が保てるよう努力している。家族からの連絡があれば相談に応じている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に希望や意向の確認を行い出来ない方にも、本人本意な生活が出来るようカンファレンスを重ねて行っている。	利用者さんは、自分の思いや言い分を自由に表現していた。認知症が進むと、思いや意向の把握は困難なことも多い。職員の一方的なケアにならないよう、家族や関係者の意見も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から担当していたケアマネージャーからの情報を得、その他ご家族や本人との日々の関わりの中から情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りを通し、日々の状態を把握している。又、モニタリング・カンファレンスを通し、情報を共有出来る様努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人とご家族の意向を尊重しカンファレンスを行いケアプランの作成をしている。	職員は、利用者さんの家を訪問したり、ライフヒストリーを知るなど深くて正確な理解を心がけている。カンファレンスには、利用者さんも参加して、意見を述べる。水分、栄養、運動などの面も鑑みながら、利用者中心の理念は、介護計画にも実践されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用している。必要ならば個別のカンファレンスを行い情報共有をしケアプランに反映させている。ケアプラン作成時担当者会議録を素に作成している。（元は介護記録）		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に理学療法士や栄養士など相談行い対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの為行えていない。落ち着いたら以前の様に自治会での情報共有やボランティアとの連携、法人及び地域との保育園との交流を行っていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を基に受診・往診出来る様に支援している。可能な限りご家族に緊急時の受診やかかりつけ医の受診同行をして頂いているが、状況や都合に合わせ柔軟に対応している。	利用者さんは、希望の医師に受診できる。家族の都合がつかないときには、職員が付きそう。また、医師に生活状況を話すために、職員が家族とともに受診に付き添うこともある。体調や病気、薬のことなどは、家族と情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に常に相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院と情報交換する等連携し病院と施設が双方スムーズに受け入れが出来る体制をとっている。アフターケア等についても情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取り対応についての説明を行っている。段階に応じ対応する体制を整えている。終末期については、マニュアルを作成して、職員間で共有している。(エンゼルケアの準備等)	医療、看護との連携もとれており、法人グループである医療機関との関係も強い。看護師も配置されているので、重症化への対応は、一人ひとりの事情を鑑みて行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い日頃より状況に応じた対応が出来る様に努めている。消防署より講師を迎え急変時AEDが使用出来るよう訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に施行している。	年二回の避難訓練は、消防署の指導のもと利用者参加、夜間想定などでも行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉がけや対応等職員間や自身で意識し気を付けている。又、勉強会も行っている。	個室のドアは閉じられている。利用者さんは自分の部屋で静かに過ごすこともあり、プライバシーは大切にされている。排泄の誘導は、周りにそれと悟られないようさり気なく促している。利用者さんに対する言葉使いは、親切で優しく、利用者さんを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に合わせ傾聴や説明を行い押しつけにならない様待つ介護を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来ない方もその人らしい身だしなみが出来るよう支援している。化粧品を使用されている人はなくならないよう気を付け購入する様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳・食器洗い・お茶作り等出来る方にして頂き役割ある生活をして頂いている。	利用者さんは隣接する高齢者ホームの厨房での手作りされた暖かい食事を、職員と同じテーブルでするなど、おだやかな雰囲気である。ときには、おやつ作りを皆でするなど、料理の楽しみも体験している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立に基づき、栄養バランスをとっている。食事、飲茶以外にも適時提供し希望者には居室にも置くようにしている。個別で水分表を用いて確保出来る様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の状態に合わせて行っている。又、入れ歯洗浄剤の使用も実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁状態の方であってもトイレに座ってもらうなど可能な限り支援している。	入居して一ヶ月ぐらいで、排泄パターンが把握できるという。その後は、頃合いを見計らって、トイレでの排泄を促している。身体機能の低下が著しい方でも、尿意がある場合には、職員が二人でトイレでの排泄をサポートしている。紙パンツは、適宜、使用しているが、紙おむつは使用していない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤も使用しながら排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望に添えるよう努めている。	浴室は明るく清潔で、毎日沸かしている。利用者さんは一人ずつゆっくりと入浴を楽しむことができる。入浴を嫌う利用者さんがおられるが、足浴や、清拭などから、始めており、決して無理強いはせず、気持ちを大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせて、自由に安眠でき、睡眠のリズムが整う様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や説明書の一覧を作成しており、把握している。服薬による症状の変化等観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力に応じて塗り絵や貼り絵、希望時の買い物等、個々に合わせた支援をしている。食事や飲茶時に好きな物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの為ドライブや施設周囲を散歩、外気浴等にはなっているが出来る外出支援を行っている。	以前は日常的なドライブや散歩などに加えて、家族会での、毎年の花見遠足、温泉、食事を楽しんでいたが、コロナ禍にあって、どうしてもホームに閉じこもるようになっている。外出や社会参加できる時が待たれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や本人の希望にて財布を持つご利用者もいる。又、お金の管理の出来ないご利用者は、希望時には預かり金から自由に買い物が出来る様に支援している。買い物場面では、本人が支払う様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話がかけられる様支援している。又、本人から家族へ手紙が出せるように取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファーやベンチ、畳敷きスペースがある。食堂には折り紙等で作った季節の花を飾り、壁には利用者の作品を飾っている。又、ベランダに花や野菜を植えて和やかな雰囲気作りをする等、職員が常に気を配り居心地の良い空間作りに努めている。	吹き抜け天井で、和洋折衷のホールは、明るく広々としており、くつろいだり、趣味や作業など、多目的に活用でき、活き活きした生活が職員とともに営まれている。飾られている作品には、作ったときの思い出や、いただいたときの感謝など、かけがえのない思いが込められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別に合わせた工夫をしている。所々にソファーを置き、気の合ったご利用者同士が過ごせる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ使い慣れた家具等（テレビ・タンス・カーペット等）、家族の写真を持ち込んでもらい、居心地の良い空間になる様に工夫している。	利用者さんの部屋は、それぞれの個性により、好きなように設えられている。ホームの中での自分だけの空間でゆったりと気ままに過ごせるように、職員もプライバシーには十分に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有場所には分かるように札をかけたり、カレンダーは分かりやすい所に大きくつけている。個々の能力に合わせた活動が行えるよう工夫し支援している。		